

































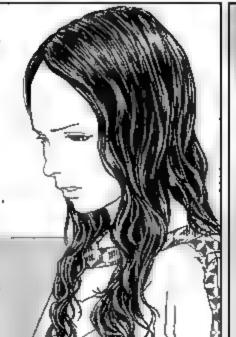






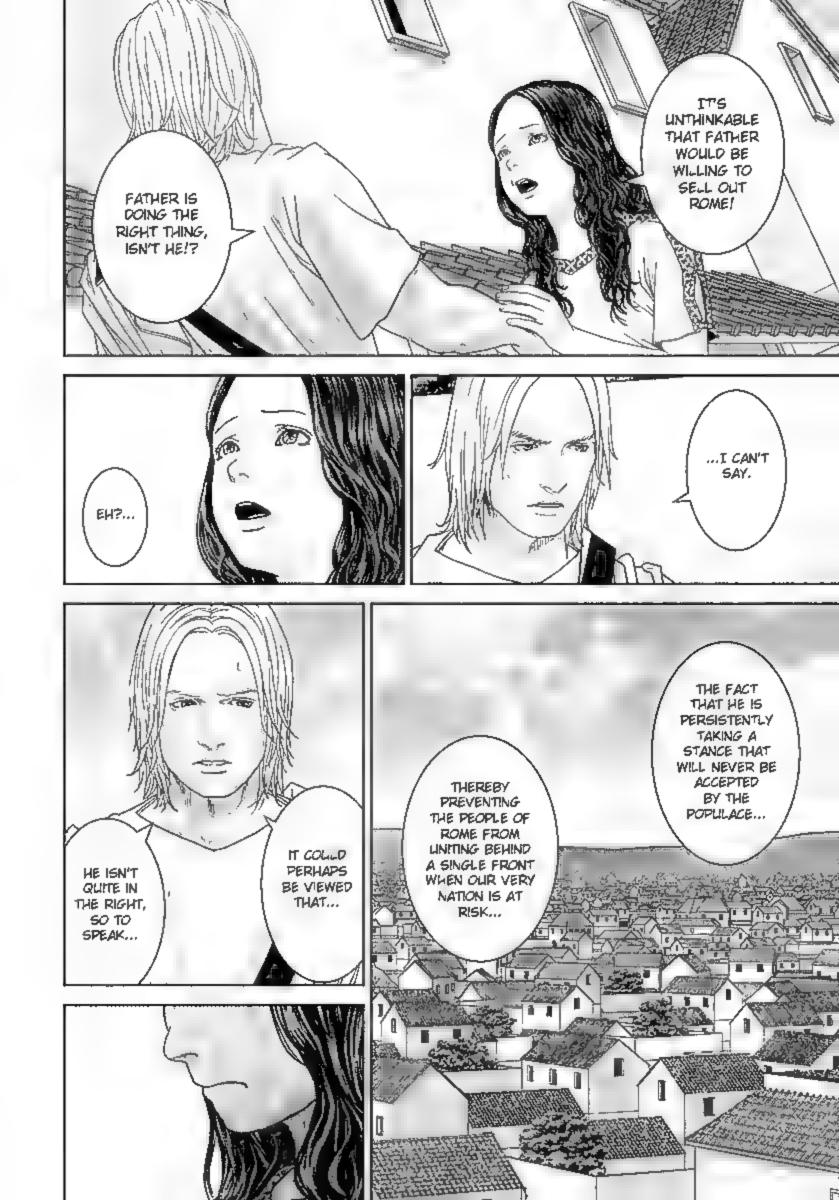


NONE OF THEM ARE WILLING TO LISTEN TO ANYTHING I SAY. THEY'RE ALL OUT OF THEIR MINDS...



IT'S BEEN
LIKE THIS
EVER SINCE
FATHER
STARTED
RUNNING FOR
CONSUL.

I DON'T KNOW EITHER...

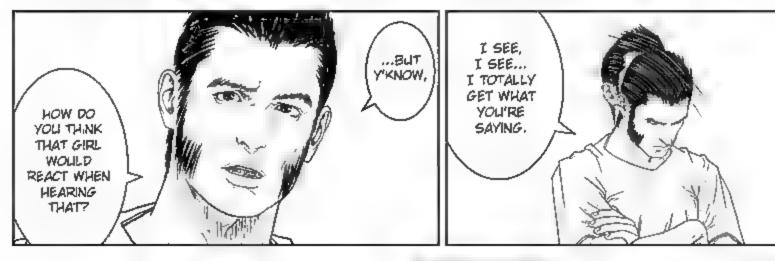










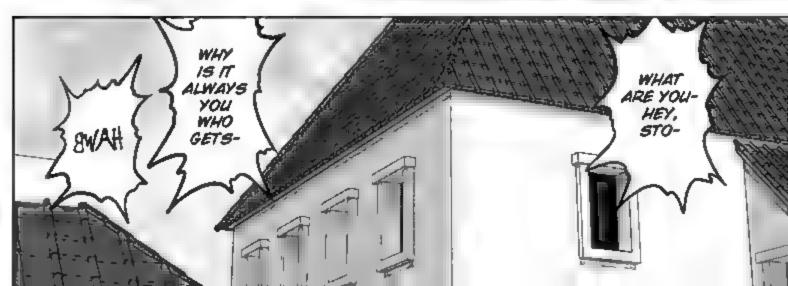


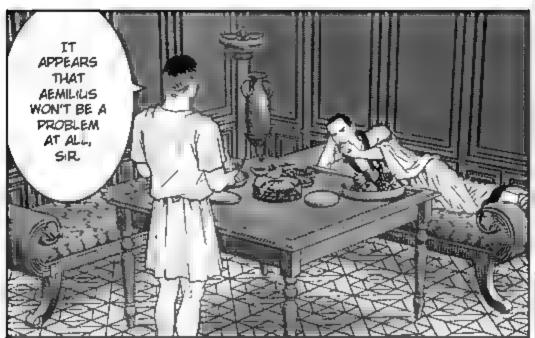














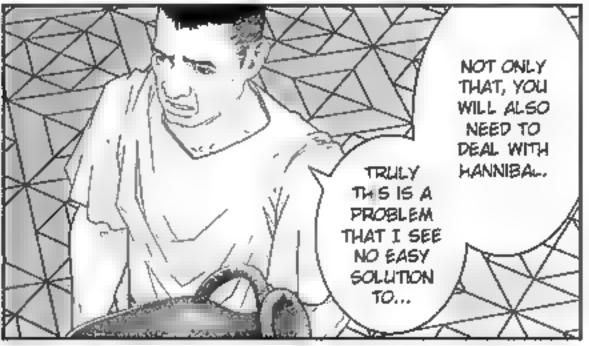






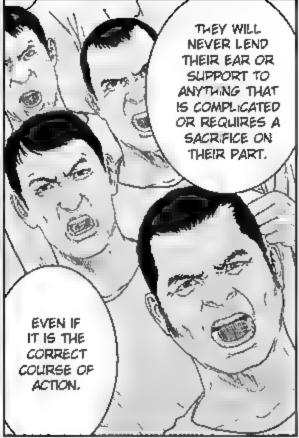
















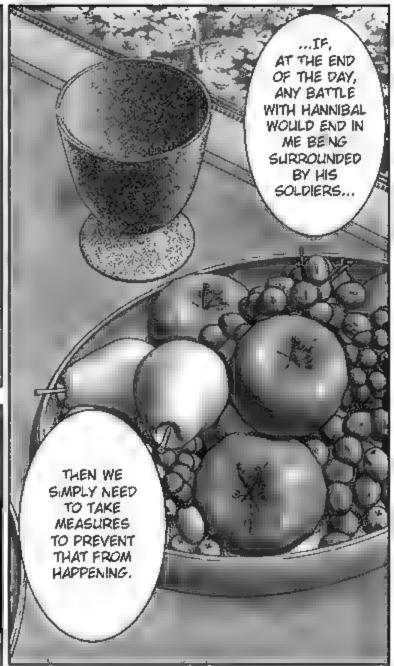
















アープラング うございます。今回はあとがきで番勝負、電王戦の感想を書こうかと思い番勝負、電王戦の感想を書こうかと思います。

戦でした。
「塚田九段」対「プエラα」テラン棋士・「塚田九段」対「プエラα」二敗で後のない状況で迎えた第四局、ベー敗でも興味深かったのはプロ棋士の一勝中でも興味深かったのはプロ棋士の一勝いずれも大熱戦で面白かったのですが、

ます。

持将棋、引き分けとするルールなのです。そこで塚田九段は敗勢に追い込まれました。す。※互いの玉が相手陣内に入る(入玉がらくこで塚田九段は敗勢に追い込まれました。する)と駒の動きの性質上、詰ますのがする)と駒の動きの性質上、詰ますのがする)と駒の動きの性質上、語ませのがでいたソフトは、第四局でもその力を発ここまで中終盤で鬼神の如き強さを見せここまで中終盤で鬼神の如き強さを見せ

ないのですが、反応は想像出来たと思い対局室の塚田九段は外野の動きはわからりな感じになっていきました。と言葉が流れ、解説の木村八段も投げやのです。ニコ生のコメントには投了しろういう将棋を指すことは不名誉なことな

差し確認をしています。潮した顔で1、2、3、4…と点数の指潮した顔で1、2、3、4…と点数の指それでも構わず指し手を進め、合間に紅

し、完全に白けた状態になってしまいまし、完全に白けた状態になってしまいまいていた大決戦の張り詰めた空気は弛緩その様子がまた嘲笑を誘い、これまで続

そうこうしてる間に塚田九段が持将棋、そうこうしてる間に塚田九段が持将棋、

しかし直後、立会人が塚田九段に対局をメントが流れました。ものか複雑な心境だったのか、微妙なコ・終局後、視聴者は素直に祝福してよい

に返ることになります。

振り返っての質問をした時、

視聴者は我

ですがプロ棋士がコンピュータ相手にこ



戦いに挑んだわけです。 は不名誉も全部背負う覚悟を持ってこの わけにはいかなかったのです。塚田九段 が負ければ最終局前にプロ棋士の負け越 す。五番勝負で二敗してる中で塚田九段 塚田九段が声を詰まらせ男泣きしたので プロ棋士の未来のためにもここで負ける しが決まってしまう状況、 興行的にも、

ないことは確かです。 ありますが、決して馬鹿にすべき戦いで プロ棋士としてこの戦い方には賛否両論

自分はこの塚田九段の戦いにファビウス の持久戦略を見ました。

せる。ファビウスの戦いそのものです。 味方を犠牲にしながらもハンニバルの率 歯が立たぬハンニバルとの戦いを避け、 はないでしょうか。 いる小部隊を襲い削って、敵を弱体化さ て来たら塚田九段と意気投合できるので テルマエ・ロマエよろしく現代日本にやっ に信じる策を貫こうとしたファビウスが 不名誉だと罵られながらもローマのため

> が嫌になります。 ても直情的にファビウスを野次るモブの で、仮に自分が当時のローマ市民であっ 指差し確認を笑ってしまってた一人なの **啓きましたが、実際は塚田九段の真剣な** …とか自分はわかってました的なことを 一人だったでしょう。 自分の小物っぷり

ます。 読者にはご存知の方も多いことでしょう。 しく、ローマは大勝負に出ることになり さて次巻はそんなファビウスの思いも虚

第二次ポエニ戦争前半戦のハイライト、 カンナエの戦いです。

ウスも胸の内は大変苦しかったろうと思

一人毅然として指揮を執っていたファビ

います。

















Staff (アシスタント五十音順)

あやたさん

神戸さん

なぎさん

望月さん

編集

山内 智

単行本編集

小林 潤

装丁

成見 紀子

To be continued....